

# 第4回 ことう地域チームケア研究会



彦根市立病院 医療情報センター  
多目的室

平成25年9月10日(火)

# グループワーク

- 講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
- 今、私たちの取り組んでいること

など

- 最期まで生きるということが大切。
- 死に対して本人、家族の思いを確認するため同意書を交わしている。
- 本人の思いと家族の思いが違ったり、家族の思いが変わってくることがあるが、医師の説明で調整できることがある。
- 施設から自宅へ戻って最期を迎えるということに取り組んでいかなければいけない。

- 地域の医師との関係で看取りがしにくい施設もある。
- 地域密着型の場合も難しい場合がある。
- 家族の思いもそのときどきによって変わっていくことがあるので、コミュニケーションをとりながら、その思いを汲み取っていくことが大切。

- 看取りをしていない施設の理由は、医師との連携が取れていない、夜間の対応が難しい、ケアワーカー、看護師など職員間でも死に関する考え方が異なるなどなど...
- 看取りを対応している施設でも、もちろん不安はあるが、経験することで日常のケアの見直しもできる。
- 終末期を体験している家族が少ないので、どうやって向き合ってもらおうか。家族も巻き込んで看取りをしていく必要がある。
- エンディングノートのタイミング、高齢者の場合、死生観を持っている場合が多い。難しいが、かかわりの中で聞いていく。

- ケアワーカーの思い、看取りへの覚悟をどうやっていくか。
- 主の医師がだめなときは、代替りの医師が対応するシステムが必要かもしれない。
- かかわりの中で看取りについて聞いておくことが大切。

Q: 看取りのプランは誰が立案しているのか知りたい。

- スタッフだけでなく、他の利用者と一緒に看取ることができた。以前は地域との関わりもあった。
- GHでは、他の利用者が混乱するのではないかと不安もあったが、意外と自然に受け入れられていた。
- エンディングノート(意思確認)を、いつするのか。
- 看取りについて、施設の環境によっても家族など関われる人数も限られてくるのかな。
- 施設スタッフの中には経験がない人も。経験を積むことも大事。
- 看取りの選択肢、今後の予測を家族に伝えていくことが大切。

- 本人の意思確認。タイミング含め、どうやって確認をするのか、できるのか。
- 施設では、夜間が不安。経験が必要。
- 施設の場合、家族がほどよい距離感で関わることができ、安心感も大きい。
- たびたびの意思確認や、覚悟が必要。
- 家族の覚悟もあるが、スタッフの覚悟も大切。亡くなるという体験があまりない場合は特に覚悟をもつことが必要。
- 元気なうちから意向を聞けるといい。
- でも、「死」や「最期」はふれにくい話題、ハードルが高い。

## Q: 家族との契約の仕方・評価を知りたい

- よく知っている医師と訪看を利用することで安心感につながった。
- スタッフの思い: 一緒に見送った。GHの入居者も確認できてよかった。
- 希望する場所で最期を迎えることは幸せなことだと思う。どこで最期をすごすのか。
- 病院では「生かす処置」をしてしまうことがある。本人、家族の思いはどこにあるのかを考える必要がある。
- 本人と家族の思いのずれをどうしていくのか。
- 在宅看取りについてケアマネも一緒に話していく必要がある。

- 在宅から施設へ入所されると契約が終了となり、かかわりがなくなってしまうので、わからなかった。
- GHという慣れた環境での看取りで、チームで関わることができた。
- 最期まで生きる支援が大切。家族と職員の思いが同じ方向を向いていることが大事。
- 認知症という面で、本人の意向に添えたどうかと思う。

- 発表のケースは良い看取り。
- 経験や体験がないと難しい。スタッフの経験不足もある。
- 元気なうちから考えておいたり、相談しておくことが大切。
- 病院に行くことでいろいろ治療を受けることがある。急変と看取りの違い。
- 家族関係、身内の関係が複雑化し、高齢者を看取る体制をつくりにくい。
- 同意書も時期がくると、もう一度確認し直すことになる。

## ➤ 同意・看取り計画立案について教えて！

- 医療処置がないと医師より説明があった時点で、家族と話し合いをする。
- 家族へまず相談。食事がとれない、脱水症状がでてきているなどの段階で、スタッフを交えて話し合い、双方が同意、書面に残す。
- 計画書はケアワーカー。担当職員がついて計画を立案する。
- 計画はチームで考える。訪問看護師も担当に加わってもらっている。

## ➤ 家族の寝泊まりするスペースは？

- 限りはあるが、確保できている。人数の制限はない。
- ホールなどを使用してもらっている。

## ➤ その他、こんな工夫を！

- 訪問看護をうまく利用するとよい。GH、特養も利用できる。日常の観察をしてもらい、いざというときは医師がいくようにできれば対応しやすいのではないかな。
- 病院では最期を迎えられない時期がくることを心に留めておくことが必要。